

総務文教常任委員会会議録

(令和8年5月28日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和8年5月28日（木）
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	鷹野正志	副委員長	田中純樹
委員	池田栄次	委員	吉田茂生
委員	石川秀夫	委員	金繁典子
委員	中野光博		

欠席委員

なし

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	土居章二	主幹	尾川美保
--------	------	----	------

説明のため出席した者

なし

本日の委員会に付した案件

（１）所管事務調査

□「移住を含めた親子留学について」

開会	13時30分
閉会	14時21分

○田中副委員長 定刻となりましたので、ただいまより総務文教常任委員会を始めます。

初めに委員長、挨拶、よろしくお願いいたします。

○鷹野委員長 皆さん、暑くなりました。今日は総務文教常任委員会ということで、全員の出席をいただきましてありがとうございます。

今日は、所管事務調査のテーマであります、移住を含めた親子留学についての今後の方針ないし事業計画といえますか、その辺を決めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。お願いいたします。

ということで、早速、前回、机上審査で、学校教育課また政策推進室のほうから、移住、そして児童数がどういうふうになるかというような机上審査をいたしました。特に、移住に関しての皆さんの意見、活発な意見がいろいろありましたが、その辺を今後、今度、親子留学というふうに結びつけるにはどういうふうにしたらいいかということで、先般、今度、一応どこに先進地視察をしたらいいかということで、各委員の皆様、そして事務局から頂いております。今日のところ8つの場所が挙がっておりますが、これに関して皆さんの意見、そして、今後どういうふうにするのか、9月にある程度の結論を出すのか、それとも12月に持っていくのか、その辺の話合いをしたいと思っております。

先進地視察ですが、今、皆さん、大体のところはお目を通していただいたと思いますが、このことについて、どうですかね、何か御意見ありますか。

吉田委員。

○吉田委員 一応、参考に、視察先候補を今、思案しながら、今回、全体で鳥取に行くので、小規模特認校については鳥取を見て、あと親子留学については東洋町がいいのか、馬路村がいいのか、それは分かりませんが、分けて視察したらいいんじゃないかなというふうに感じました。

○鷹野委員長 となると……

中野委員。

○中野委員 小規模特認校という制度がよくあれで、何か、小規模ということは、ちっちゃいクラスやということでしょう。何か補助があるとか何とか、そういう特別なものがあるんですか。それで言うと、今度、この親子留学で来てほしいのは、というか、特認校として来てほしいのか、ちょっとこの委員会のあれとは、ちょっと僕、特認校というのが、そこら辺りがちょっと理解できんのですよね。生徒数のあれとか、何かいろいろあるんでしょう、多分ね。そういう辺りをちょっと説明していただいたらと思うんですが。小規模特認校というのを。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 小規模特認校というのは、文科省が認めている学校の制度で、文字どおり、特定の小さな規模の学校になるんですけども、親子留学を受け入れるような学校も、通常は小規模特認校と重なったり、実際に小規模特認校だったりします。なので、それは別々のものじゃなくて、何て言うのかな、随分重なるものです。

小規模特認校は文科省が認めてからどんどん、全国的に数が増えていて、特色としては自然豊かな環境を生かした農業体験ができるとか、地域住民と連携した特色あるカリキュラムが充実しているとか、ということを特色に教育をしていて、それが魅力で親子留学をして、親子移住をして来てくれるということが実際に起きているということです。なので、全く別のものではなくて、重なり合うものです。

○鷹野委員長 中野委員。

○中野委員 だからあと補助金が下りるとか、そういう補助が手厚いとか、今度移住してもらった後は、小規模で来てもらうんだけど、そのまま小規模の学校じゃないといかんのか。僕はそれだと筋がちょっと違っているような形に思っていて、やっぱり来てもらう限り、移住してもらう限りは、いて、地元の学校で一緒に同じように親子で来てもらって、移住してもらって、そ

してそういう形でやるような趣旨なのかなと今回思ったんですが、小規模に特定してしまうと、それはどうなんですかね。来て、もし移住してきますよといっても、やっぱり小規模を維持せんといかんのか。補助が下りるとなると、そのときだけ補助をもらって、後は、維持するときには、ほかの、既存の学校と一緒にってもらうのか、そこら辺りのちょっと制度がよく分かんので、ちょっとそこら辺りを教えてもらったと思うので、ちょっと委員会の中の移住者の趣旨とは違ってくるような気がするんですよ。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 私はそもそも、親子留学イコール小規模特認校への親子留学もしくは移住と重なって考えていて、全然別のものではないと思っています。補助金は確認できていないんですけども、特にあるということではないと思います。

それから学校の規模については、人が多くなったら解消されるんじゃないかというのが危惧ですかね。そういう学校は、あるかどうかはまだ調べていませんけど、私が見てここに出している学校は、そんなに大規模校のものは含まれていないですし、小規模特認校に認定された後、人がたくさん来て、それが解消されたという学校もないです。

○鷹野委員長 ですから、今回のその、ここでいう特認校という指定、特認校にこの愛南町もするんじゃないくて、そういう特認校でやっている自然の、特色ある小中学校、こういうことを学んで、愛南町にもそういったことで人を呼んできて親子留学につなげるということやけん、特認校にするというんじゃないくて、特認校のいいところを学んで、それを親子留学につなげるという趣旨でいいんですよ。

中野委員。

○中野委員 それだと、例えば平城辺りに来てもらってあれすると、小規模やなくなるわけでしょう、小学校辺りが。そうしたら、どこに……

○鷹野委員長 だから、特認校ということからまず離れてもらって、平城小学校でもまあ、小規模の学校じゃなくても普通の学校に親子留学で来てもらうという、そういうことです。あまり小さい学校で、特色あるどうのこうのやなくて、こういう小さいところでこういう特色を生かしたことが、特認校で認定されていると。これを活用、愛南町でも活用すれば、平城小学校に留学で、親子留学で来ていただけるということを今からやっていきたいと思いますという趣旨やと思うんですよ。

池田委員。

○池田委員 いや、ここでちょっと質問すべきことやないかしれんのですが、そもそも小規模特認校の定義というか、特認校制度の目的は、どがいな目的で小規模特認校。これ、多分、恐らく、本来の通学区域外からの入学・転校を特別に認めることができる制度ということなのかな。そうしたら、逆に、今言いよる里山留学、例えば県外から、当然、校区外や、ほんなら、そこら辺との兼ね合いは、どういう関係になるんやろうか。

○鷹野委員長 だから、あれやない、特認校という言葉、特認校という……

補佐。

○尾川事務局主幹 一応、私のほうで知り得る情報として、特認校制度自体はその、金繁議員が先ほど言われたみたいな特色ある学校で、町内のどこからでも校区に関係なく通える学校を指定する。で指定された学校が特認校なんですけど。愛南町は今なくて、校区外で対応している感じです。

愛南町内の学校は、平城小学校であっても城辺小学校であっても、もうもはや小規模校しかない状態なので、かなりもっと特に小規模なところもありますけども、どこも小規模校です。どこでもそれはいいと思うんですけど、さっきの里山留学とかということになると、親子留学で入ってくる場合は、どこも大体、住民票を移してもらう。本当に転入してもらって、1回移住してもらっての、通うところがほとんどです。なので、まあ言ったら、特認校制度を利用し

た学校が1つあったら、町外から転入してこられたら、町内のどこに住んでいてもその学校には通えるという状態にはなりますけど、特認校でなくても、その学校に通いたくて親子留学をする学校を決めたら、その校区内に転入してくるという方法もありますし、校区外であっても、逆に校区外通学の許可をもらうということもできるんじゃないかなとは、こちらで聞いた情報では、そういうふうに把握しています。

○鷹野委員長 池田委員。

○池田委員 そしたら、里山留学制度を活用するに当たって、特認校の指定を受けなくてもできるということですね。

(「そうそうそう」と言う者あり)

○鷹野委員長 田中委員。

○田中副委員長 特認校は、要は、同じ、基本的には愛南町内に適用される。例えば城辺に住みながら船越小学校に通うとかというのが特認校なわけで、里山留学自体は、他地域から全然、県外から来ました、で、特認校指定になっとったら、例えば城辺に住みながら船越小学校に通うことができるわけですよ。特認校になっていたら船越小学校がという感じですよ。

○鷹野委員長 池田委員。

○池田委員 ちょっとくどいようやけど、でも今の愛南町では、できるんですよ、校区外でも。

○鷹野委員長 町内やったらできます。

○池田委員 校区外にあれしとって、申請というか、通えるんですよ。そうしたら特認校制度、特認校に指定される必要があるんやろうか。

○鷹野委員長 中野委員。

○中野委員 特認校指定とかになってきたら、校区外に行っても、送り迎えをせんといけんとか、そういうことが違うてくるんやない。今、校区外に行っても、送り迎えしなくてええやないですか。それで、もしも、送り迎えもしてくれるんですかみたいな話になったら、今それはちょっとまずいでしょうという方向になっとるのに、どうなのか。統廃合も、今は小規模校をなるべく何かこう審議委員会とかで、何かそっちの方向にあるのに、またそれを今の状態で来てもらって、なくなるんですかみたいな話もあるから、そこら辺りはちょっとこの小規模何とかという部分に関しては、ちょっと、ううんと思うんですが。

○鷹野委員長 補佐。

○尾川事務局主幹 すみません、今のところ知り得る情報の中での話なんですけども、今見ている中の親子留学のところは、うちの校区外とほぼ条件が一緒で、親で責任を持つての送り迎えになっているところがほとんどですけど、まあ例外もあるかもしれないので、ここについては一応情報としてお伝えしておきます。

○鷹野委員長 田中委員。

○田中副委員長 そもそも、別に特認校とかどうでもよくて、親子留学してもらうために、たまたまそういうことなんで、そこは別に言う必要もないのかなと。なので、魅力ある学校がどういうふうにできているかということですよ。だからその点について話せばいいのかなと思います。

○中野委員 いや、ここ、特認校がだらだらと来て、何か特認校の特色みたいな感じで言っとるから、ちょっとそこら辺りを確認したかっただけなんですけど。

○鷹野委員長 ということでまあ、特認校という言葉にとどまらず、魅力ある学校ですね。まあ言うたらそういう特色ある学校、行ってみたいというような学校をいかに我々も研究するかということですよ。

それで、どうしましょう。まずこの8つある中で、一つずつというのもちょっとあれなので、まず行くかどうか、というか、いつ行くか。で、いつその、9月定例にするのか、12月定例にするのか。まずそこを正式に決定したいと思います。もし9月にするのであれば、もう7月

中には視察に行かないといけないので、その辺、皆さんの考えをお聞きいたします。

吉田委員。

○吉田委員 さっき言ったけど、鳥取行きについては11月か12月、11月ぐらいですかね、予定しているのが。それを見るのであればですよ、小規模校の特認校を見たいのであれば、それは当然11月ぐらいになりますので、12月定例。それはいいよと、もう親子留学だけにするのであれば、高知で、夏休みに入りますのでいずれにしても9月になりますから、定例に出すのは12月定例でいいんじゃないかなというふうな感じはします。

だから、もしあれだったらまあ小規模特認がどれだけメリットがあるのかどうか。いろいろ、廃校になったりして、ボツになったりしているところもあるみたいなので、その辺はいい悪いは判断する材料として、小規模特認校はちょうど鳥取市なんで、全員で行くあれが鳥取、島根だったと思いますので、それをちょこっと入れていただければ見られるのかなと。それから、東洋町、馬路村が親子留学で結構、そこそこしているので、それは別の時期に、このメンバーだけで、7月、8月は休みなので、9月定例が終わった後ぐらいで行ければいいんじゃないかと思います。

○鷹野委員長 今、全体の研修ですね、それで鳥取、島根へ行くので、それも我々の研修を兼ねて、いうかまあ全員で勉強すればいいんじゃないかという意見もございました。

ほかに何かありますか。

石川委員。

○石川委員 特認校は愛媛県にも当然、松山でもありますし、先ほど副委員長が言われたように、特認校というよりも、特色のあるような学校であれば行く価値があると思うんですが、今回の総務文教常任委員会のこの調査研究のお題目が親子留学ということなんで、もう親子留学に絞って、私は、東洋町と馬路村が近くに存在するので、そこを中心に見たらどうかと。时期的に言えば、今からでしたら1か月ありますので、6月の終わりとか7月の最初でも行けるんじゃないかなというふうに思います。1か月程度あるので。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 私も親子留学でいいと思います。ただ、親子留学の場合は、移住というよりもその期間限定の、何と言うか、期間限定の移住ということなので、小規模特認校でその親子留学と同じように、特色を持った学校で、移住者に来てほしいと努力されているところというのは本当に、もちろん住民票を移して、テンポラリー、一時的ではなく、そこにずっと住むという前提で来てもらうものなので、親子留学の場合というのがその、1年とか数年だけで考えているんじゃないかなというのがちょっと気になるころではあります。

親子留学の定義を見たときに、1年とかと書いてあるところもあるので、だからそれだとちょっと、この移住を含めたという部分が弱くなってしまうというか、なのかなというのが懸念です。NPO法人全国山村留学協会というところを見てみると、自然豊かな、山村留学という場合だと、自然豊かな農山漁村に小中学生が1年単位で移り住み、地元小学校に通いながら様々な体験を積む活動ですとあるので、移住というよりもお試してみたいな。

○鷹野委員長 大体1年いて。

○金繁委員 なので、そこを、もうちょっとこう、移住に力を入れるのであれば、それを念頭に、成功しているところ。まあ上の4つは私が挙げたんですけど、長野、兵庫、鳥取、徳島。この4つは、実際に、町外からの移住者が増えて、もちろん学校の小中学生も増えているということで、上位に出てきた学校です。

○鷹野委員長 中野委員。

○中野委員 ほかのところは、馬路村とか、東洋町、あまり移住には、資料がないんでしょう。あるんですか。出てきたけど全然、移住者が結構来てるよとか、馬路村なんかはユズとか何とかのあれで、仕事もちょっとそういうので、家族でやれば何とか生計もあれだからとか言って移

住にきた人が、もう全然、資料がないんですかね。やっぱりそういうところが、趣旨の目的が、移住を含めたから、移住に来てほしいわけでしょう。そのための委員会やという認識でおるんですが、そこら辺り。

それでその、金繁議員が言われるように、鳥取でそういうのがあれやったら、鳥取だけ、そこで移住がそんなにあるのであれば、議長が言われたように、そこに行って、そこをあれして、そこで行って、視察させてもらったらどうなんですか。そうしたら移住もあるわけでしょう。移住が増えているわけでしょう。だからやっぱりそういう移住が定着して、ちょっとお試みたいに遊びに来るみたいな、夏休みを利用して来るみたいな感じのあれではちょっと、意味がちょっと違うのかなと思うので、ちょっとそういうのを資料がないから、どの辺りに移住者がおるのか、これはただ半年とか1年とかで、それだけで終わっているのか、そういうあれがないと、移住に関わるような、何かこの委員会とちょっとずれるのかなという感じがあるので。移住がどのぐらいこう、家族で来てくれる人がいるのかみたいな、そういうところが、資料があればね、そういうところがやっぱりこの委員会の趣旨に沿っているのかなという感じがするのですが。

○鷹野委員長 吉田委員。

○吉田委員 親子留学の定義はさっき言ったように1年かもしれないけども、来てみて、子供ですから、友達と離れたくないという感情が1年以上たって生まれてくると、今度は、移住というんですかね、それにつながっていけるようなチャンスもあるので、それを一概に親子留学だから定住はないよということではなくて、いろんな選択肢がある中で、まあまあ親子留学がベストなのか、小規模特認校の形がベストなのか、その辺はまだ全然分からないので、いろいろな資料は必要だと思いますけども、ここに来てこうやって常任委員会でするのであれば、いろんな面を視察するのが、僕は一番いいかなというふうには思います。

愛南町でもまあ、学校に通えない子が結構いるのは私もいろいろな人から聞いているんですけども、なかなかこう友達と離れるのが嫌なんだけど、ある環境が嫌で行けなくなっているとか、そういう様々ないろんな現象があるので、そこは一概にこうだからこうですよという形で解決はできないということなので、山村留学とか親子留学も同じような状況だと思うんですね、いろんな意味で、様々な形があるもんですから、そこは限定しないで、広く勉強したほうがいいのかなというふうな気がします。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 私も限定せずに見たらいいと思います。先ほど中野委員がおっしゃっていたように、この、今出ている高知県の親子留学のところには移住者がどのぐらい、町外から親子留学に来てくれている人たちがどのぐらいいるのか。それと定着率というか、そのまま残ってくれている人がどのぐらいいるのかというのはちょっと調べてみたいなという気がしますね。

○鷹野委員長 どうします。どうします言うか。

中野委員。

○中野委員 これもう9月に出すのであればちょっともう、委員会もまたということもありますが、もうちょっとそこら辺りも含めてもう1回、設定場所を決められて、資料をちょっとそこら辺りの中から、移住者とか定住者とかがあるのかないのかも含めて、そうしたら、鳥取のほうなんかはもうついでやから行ったらええし、けど鳥取に行くになると、12月じゃないと出せんわけでしょう。それやったらまだ時間があるんで……

(「12月も危ないかも」と言う者あり)

○中野委員 ああ、そうなんですか。

(「危なくないと思いますけど」と言う者あり)

(「10月から11月になるんじゃないの」と言う者あり)

○中野委員 そこら辺りを含めてもう、12月で、まず、期間は12月でええと言うのであれば、

12月でええと言うんであれば、もう鳥取は行ったらええと思うし、それでそれ以外に行くのか行かんのかというのをもう一回、資料をもうちょっところ、そこら辺り、出た中からでもいいですが、全然、もう移住して、ただそれだけで終わってしまっているばかりなのかというのはちょっともうちょっところ、資料があればいいなと思うし、もう決めるんやったら決めてもらっても、まあ議長が言われるように、行ってみたら勉強にならんことはないから、それも含めてやけど、やっぱり、移住になるとやっぱりね、職業とか働く場所も含めてになってくるから、そういう部分もあると思います。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 そうですね、調べるのはいいと思います。時期的には、私はやっぱり9月議会に出したほうがいいなと思ってしまして、というのが今、前も、前回も申し上げましたが、学校教育課のほうで今、未来の学校の在り方検討委員会というのが進んでおりまして、議会のほうでも、そこに何らかの提案を出せるような形がいいかなと思っておりまして、その委員会のほうが、もう年末には一応答申をつくってしまうということなので、12月議会に、議会からの提案を出しても遅くなってしまうということが一番大きな難点としてあります。

考えるんですけど、現地に行かなくても、例えば、議運でも話したんですけどオンラインでお話を聞く、そうしたらお金もかからないですし、そんなね、建物とかを実際に見て、どれだけ、写真とか動画とかいろいろあると思うので、今の時代。なので、オンラインで見せてもらえたら、質問とかもさせてもらえたら、それでいいんじゃないかなと思います。

○鷹野委員長 田中委員。

○田中副委員長 僕も金繁委員の意見に賛同します。これ、いろいろ調べていたりとかして、見て、思ったんですけど、特色ある学校というのは、愛南町はもう既にあるんですよ。だからまあ、いろんな、例えば田植えの体験をやったりとか、当然その、海の関係の学習だったりとかというのを現地に行ってそれのできるの、こういうのを見ていたらやっぱりそういうことを、実際都会ではできないので、そういうので親子留学されているというところかなと思ったんですよ。

なので、今回の肝は、プロモーションかなと思っていて、じゃあそのプロモーションと、あと受入れ体制というところが肝なので、それは行政のやっぱり仕組みになるので、我々が調べて、やっぱりそこに対して、例えば家、住まいのアテンドだったりとか、そういうところはこういうふうに行っているのかということ、オンラインで本当に聞けばそれで済むのかなと。ある程度、情報とかデータを持っているはずなので、どういうプロモーションをして、幾ら人が来ましたよとかって。とにかく知ってもらわないと絶対来ないはずなので、大体の田舎の小学校って、特色ある学校だと僕は思っています。僕の前職でいろいろ取材させてもらったらもうどこも面白いことをやっていたりとかしているの、そこよりも、むしろ今言ったプロモーションの方法というのを行政の立場からどういうふうに行われているのかということ、聞けたらなと思います。

以上です。

○鷹野委員長 池田委員。

○池田委員 それやったら、オンラインでやるとか、それが一番いいとは思いますが。

(発言する者あり)

○鷹野委員長 池田委員。

○池田委員 休憩をお願いしてもいいですか。

(「休憩」と言う者あり)

○鷹野委員長 暫時休憩します。

(休憩)

○鷹野委員長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

今後、どういうふうな形で持っていきましょうか。

金繁委員。

○金繁委員　なので、このリストに挙げられているそれぞれの町の学校について、4点について調査していただけたらと思います。

1つ目は、まあ特色、その学校の特色として、愛南町の学校がされているような特色、似たようなものなのか、それからさらに進んだ特色を持っているのか。

2点目として、その特色をどのように外に発信して、田中副委員長が言われたようなプロモーションですよね、来てもらうようにプロモーションしているのか。

3つ目は、来てもらうときの受入れ体制をどのようにしているのか。

4つ目は、親子留学ですと、限られた期間ということになるのが原則のようなんですけれども、1年、2年じゃなくて、小中そして高校まで定住して、居てくれる人がどのぐらいいるのかについて調査をしていただけたらと思います。

実際に視察に行くというよりも、オンラインで質疑させていただいたら、大体のことは把握できると思いますので、そしてたくさんの視察の代わりの情報が頂けると思うので、オンラインであることを提案したいと思います。

以上です。

○鷹野委員長　今、金繁委員から、各、その、ここにある学校の特色、もうちょっと掘り下げた内容を調べるということと、あと、現地に行かなくてもオンラインでやったらどうかという意見がございました。

そうしたら、オンラインに関しては、よろしいでしょうか。オンラインでやっていくという。視察やなくてオンラインでやるという方向で。

石川委員。

○石川委員　もうオンラインで、もうこのリストに上っているところを候補として、オンラインでつなぐのであれば、もう直接聞いたほうが、調べるよりも早いんじゃないかなというふうに思います。

(発言する者あり)

○鷹野委員長　先方もあるし、そう簡単に、簡単に行くもんじゃない……

○石川委員　いや事務局が、質問要旨だけ投げておいて、それでオンラインつないで。そのほうが事務局も負担がかからんんじゃないですか。

(発言する者あり)

○鷹野委員長　土居事務局長。

○土居事務局長　石川委員の御提案、ありがとうございます。事務局の負担も勘案していただきましてありがとうございます。

整理いたしますと、委員の皆様から、今リストに挙がっている自治体のほうに投げかける質問を出していただいて、それを先方に、先に投げかけます。事務局のほうでオンラインのそういったヒアリングというか、日程を調整した上で、委員会で聞いていくということでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○土居事務局長　ありがとうございます。

○鷹野委員長　そうしたら、いつ頃。

中野委員。

○中野委員　今、極端に言うたけど、これ全部に質問状を出すわけですか、全部に。

(「そうそう」と言う者あり)

○中野委員　出すけど、これを受け入れてくれるのは、これを全部受けたらまたそれもあれやから、そこら辺りは……

(発言する者あり)

○中野委員 くれる前、できんけどちょっと、そこら辺りを整理をしとかんと。どうなんですか。

○鷹野委員長 絞ったほうがええんやない。

○中野委員 まず、受け入れてもらえる、受け入れてもらえん分も全部出して、返事をくださいと言うんですかね。それは事務局にまた。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 絞ることもいいかもしれませんが、タイミングも含めて、先方の都合もあると思うんで、私は、こういう内容で、オンラインでお願いしたいということを一度投げかけて、受入れていただけたところのみをオンラインでつなぐという形にすれば、全部が全部オーケーしてくれるとは思えないので、もう先方の都合もあるので、そうしたほうがいいんじゃないかなというふうに私は考えます。

○鷹野委員長 ほかの人はどうですか、ほかの委員の方。

まあ、この中でも、その、やっぱり、ある程度、ある程度絞ったほうがいいと思うんですよ。ごめん、私の意見ですけど。だから、特に高知県東洋町、馬路村なんかは親子留学ということで書かれているので、近くやし、やっぱり我々と環境が似ているところだと思います。あまりにも、姫路市なんかキャパが大きくて、市の中だから、ちょっとまたその留学ということになったらまた交通の便とか、また田舎とちょっとかけ離れているので、その環境……

(発言する者あり)

○鷹野委員長 姫路の山奥ということ。丹波篠山市辺りの、ああいう山のところ。

ちょっとその辺を、やっぱり事務局に、一遍やっぱり絞っていただいたほうがいいんじゃないかと思いますが、どうでしょう。

中野委員。

○中野委員 事務局、あれですか、一応、オンラインとか何とかが受けてもらえなくても、一応それを出すのは全部に出してでも、返事とかがもらえるような方向は、なかなかなんですかね、それは。

○鷹野委員長 事務局長。

○土居事務局長 中野委員からの御質問なんですが、やり方としては、今、8つの自治体がリストにあります。そこに事務局から、正直なところ、お電話で聞いてみるのが第一段階。それでちょっと難しいですよというところはリストから必然的に外れて、どれぐらい残るか分からないですけど、そこで絞れるのかなという気はします。

以上です。

○鷹野委員長 そうしたらまあその辺は事務局に任すという形でよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そうしたら、オンラインを実施する時期ですが、どの辺をまず、大体。

事務局、何か、今後の日程で。それと、いつ結論を出すか、これをまず、最初に決めましょうか。9月定例に間に合うように出すか、12月に出すか。

(「オンラインやったらすぐできる」と言う者あり)

○鷹野委員長 そうしたら、9月定例に出したほうがいいと思う方、挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

○鷹野委員長 そうしたら、12月定例がいいという方、挙手をお願いいたします。

○中野委員 ちょっとそれ、今、挙手の前に、まず事務局の仕事の、例えば6月の定例の最後にと何かとかいう意見もありましたけど、どこら辺りまで事務局がこう、やっていけるのか、そこら辺り、どこまで進んでいるのか。

○鷹野委員長 それもあるか。

○吉田委員 事務局が決めるんじゃなくて我々が決めるんです。事務局は事務局でそれができるか

できないかを判断するだけで、中野さんはどうも事務局主体で、それは関係ないと思います。だから今回オンラインにするのであれば、6月ならもう9月も十分間に合うし、ということでしょう。

○鷹野委員長 土居事務局長。

○土居事務局長 中野委員の御提案、ありがとうございます。

議会の今後のスケジュールを参考までに申しますと、6月定例会が6月12日に終わります。それから、7月とかになりますと、8月10日に予定しておりますあいなん未来議会の関係の、そういったちょっとした事務的なことも発生するので、それを除くと、大体、7月13日、月曜日の週か、その次の週は未来議会の一般質問が出てきたり、そういったものの処理的なところもあったりするので、一番月末の週、28日、29日、30日ぐらいだと今のところそういう、未来議会のそういった事務的なところは、今のところは予定していません。

金繋議員から御提案があった、9月定例会でということは、学校教育課の会議が年内に答申の案をつくられるということで、その答申案の最終的な会議は、学校教育で確認すると、年明けの1月に最終の会があるらしいです。ということで12月に答申をつくられるということやっただと思うので、そこは補足させていただきます。

以上です。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 まず、事務局のほうに、電話で聞いていただいて、いつ頃このオンラインができるか。

できればそれは6月に開けば、6月中に開けばいいとは思いますが、先方のこともありますので、まずは事務局に聞いていただいて、先方の都合を聞いて、なるべく早い日程で組んでいただくようなことを考えれば、私はいいいんじゃないかなというふうに思いますが、9月にするか12月にするかも含めて、その時点で決めればいいんじゃないかなというふうに思いますが、いかがですか。

○鷹野委員長 今、石川委員から、事務局、先方もあるものなので、その辺、事務局の進行状況によって決定するということがありました。じゃあ、それでよろしいですか。

中野委員。

○中野委員 それでいいんですが、先ほど議長も言われたけど、これ、相手もあることで、もう決めたらいいんやみたいなことを言われたけど、やっぱり事務局としての立場もあって、相手もあることで、ここだけでやる話でもないの、やっぱりそこら辺りは、一応、9月は9月でいいんですけど、やっぱりこうですよと言うたら、それを無理強いして、絶対9月やないといかんみたいな話もいかなので、ちょっともう一回集まるわけでしょう、もうちょっとその部分、問い合わせてもらった後にもう一回委員会があるんでしょう。そのときにもう一回確実に決めたらええと思うんで、そこら辺りは、事務局が、問合せしてもなかなか返事がないとか、相手ができないとかいうのがあるから、一応、9月前提でやるんですけど、事務局に早急に、まずは向こうの部分、相手をあれするのが一番やないですか。それで組んでいって、やれたらやったらいいと思うし、それは大事だと思いますよ。

○鷹野委員長 吉田委員。

○吉田委員 堂々回りで、さっきからそれで決めたじゃないですか。堂々巡りしても意味がないので、9月、12月というのはまたそれは別問題で、今取りあえず決めてもらって、オンラインでやりましょうというところまで決まって、前はそれ視察に行きましょうという話で今日集まっているので、話がこうやってもう二転、三転しているわけですよ。今日、今決まったことは、まずオンラインですと。そうすると、事務局に調べていただいて、できるかどうかをすることということで、次にまた集まるということなんで、もうそれでいいじゃないですか。

○鷹野委員長 そうしたら、事務局にお願いして、オンラインできるかどうかというそのアポを取っていただいて、いつ頃だったら大丈夫だというその日程ですね、それを含めて、また次回、

開催する日を決定します。それでよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そうしたらそのようにしたいと思います。

その他、何かありますか。

(「ありません」と言う者あり)

○鷹野委員長 はい。

○田中副委員長 では、総務文教常任委員会を……

○鷹野委員長 土居事務局長。

○土居事務局長 事務局のことも考えていただきありがとうございます。

一応参考までに、今日が5月28日、木曜日でございます。6月3日から4日、定例会初日、2日目ということで、本日、議運のほうで決まりましたので、その次の週の、8日の月曜日から10日の水曜日までですと、今のところ予定が入っていないので、それぐらいじゃないとスケジュール的にちょっとね、後になると厳しいかなというふうには思うんですけど、いかがでしょうか。もっと早くということであれば、どうなのかな、事務局としてはその8日、9日、10日のいずれかで次回の総務常任委員会を開催していただくと、今日早速電話して、まとめることはできるかなと思うんですが。

○鷹野委員長 それまでにできるということ。先方さんの。

○土居事務局長 先方には電話をして、できるかできんかというまとめだけなので。後になればなるほど、オンラインも先になるので、早いほうがいいかなと思います。

○鷹野委員長 そうしたら、会期中に会議を開くという形でよろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そうしたらそのように、8日か……

(発言する者あり)

○鷹野委員長 8日、月曜日でよろしいですか。それで事務局、大丈夫ですか。

○土居事務局長 はい。あの、時間は。

○鷹野委員長 午前、午後。

(「どちらでも」と言う者あり)

(「午前中で」と言う者あり)

○鷹野委員長 10時でいいですか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そうしたら、8日、10時から次回の総務文教委員会を開催いたします。よろしくお願いたします。

その他、何かありませんか。

(「ないです」と言う者あり)

○鷹野委員長 ないようでしたら終わります。

副委員長。

○田中副委員長 以上で総務文教常任委員会を終わります。

委員長